

医療における不確定性と医療事故 / 医療過誤

患者さんは一人一人異なった体質を持ち、また病気の状況も人それぞれです。病院ではこのようなささまざまな患者さんや病気に対して、実績や経験、データをもとに診療を行なっていますが、残念ながらその結果が常に一定の良い成果をもたらすとは限りません。例えば、薬剤に対する反応一つ取ってもそこには個人差があり、人によってはアレルギーが出ることもあり、また同じように手術をしても合併症を起こす患者さんがいます。

このように医療では、診察、診断、病状の把握、治療の選択・実行などの一連の行為が適切に行なわれたにも関わらず、期待した結果が得られないことがあります。このような事態は「医療事故」（医療の過程で起きる全ての事故を指す）とは言っても、「医療過誤（医療ミス）」（医療提供側の過失による事故）とは区別されるべきものです。すなわち医療の現場では何らミスがなくても、一定の割合で医療事故が生じており、そのことを指して「医療の不確実性（不確定性）」と呼んでいます。

近年、医療技術が発達するにつれて、医療に対する社会の期待も高まってきました。しかしながら、医療には依然としてこの不確実性があるため、常に良い結果が得られるとは限りません。医療訴訟の増加の一因には、このような医療に対する社会の過剰な期待に反映した部分もありますが、私たち医療従事者はその期待に応えるべく安全、かつ質の高い医療が透明性をもって提供できるよう努力していきます。

同時に患者の皆さんにおかれましては、このような「医療の不確実性（不確定性）」について充分ご理解いただき、当院の診療をお受けくださるようお願い申し上げます。